


信州大学農学部

# 環境講演会 2013

タンザニア・キロンベロ氾濫原における  
生業の拡大と自然保護政策の推進 

2013.12.20 (Fri) 14:00~16:00 11 番講義室



【講師紹介】

加藤太(かとう ふとし)氏  
日本大学生物資源科学部 助教  
1978年 東京都生まれ  
2002年 信州大学農学部食料生産  
科学科卒業  
2008年 京都大学大学院アジア・  
アフリカ地域研究研究科博士課程  
修了  
京都大学大学院アジア・アフリカ地  
域研究研究科研究員(2008年よ  
り)、信州大学農学部研究員(2009  
年より)、日本学術振興機構特別研  
究員(PD)(2012年より)などを  
経て、2013年より現職

タンザニア中南部を流れるキロンベロ川水系には、面積約 11,800km<sup>2</sup> の広大な内陸氾濫原が形成されている。水に恵まれたこの地域では古くから稲作がおこなわれてきたが、経済自由化が進展するのにもなって、もともと居住していた農耕民の稲作が急激に拡大し、現在では国内生産量の約 1 割をまかなう重要な稲作地帯となっている。また、1980 年代後半からは、稲作と牧畜を営む半農半牧民が同地域に移住してきており、彼らによって放牧が盛んにおこなわれるようになった。また、同地域には多くの野生動物が生息しており、近年では自然保護政策が実施されるようになってきている。

2000 年代に入りタンザニア政府が環境保護と観光産業の振興を目的とした政策を打ち出すようになり、同地域において水田や放牧用地だった湿地は野生動物の保護区としても価値を持つようになった。近年は、生業を拡大したい住民と保護区を設置したい政府の間の溝が深まり、氾濫原の多様な土地利用は、より複雑な問題をはらむようになってきている。本講演ではこうした問題に焦点を当て、生業の拡大と自然保護をどのように両立していくべきなのか、同地域の事例を参考に考察していく予定である。



会場 信州大学農学部 11 番講義室  
主催 信州大学農学部環境委員会

**申し込み不要・参加費無料**

□■□問い合わせ□■□

信州大学農学部環境 ISO 事務局

TEL: 0265-77-1505

